

ご挨拶に代えて

投資から投機を駆逐するために (2019.10.17)

『森本紀行はこう見る <https://www.fromhc.com/column/>』より

fromHC 検索

投資というのは、ある対象に資金を投じたとき、その対象に内在する価値が時間をかけて実現していく過程のなかで、投じられた資金が増殖していくことです。本質的に長期のものです。ところが、資本市場で取引される株式や債券の場合には、需給関係で価格が形成されるのであって、その価格は、長期的には価値の変化を反映するにしても、短期的には価値から大きく乖離し得るのですから、短期保有で売却して利益を得ようとするのは、価値の増殖を目的とした投資ではなくて、価格変動の機微をつくことを目的とした投機なのです。

本来の投資の意義を明確にするためには、それを端的に投資と呼び、短期的な価格変動を狙う行為は、投資ではないとして投機と呼び、投資の世界の外へ放逐したほうがいいのです。

また、投資目的の人にとって、短期的な価格変動としてのリスクは、付随するが故に受け入れざるを得ないものとして、消極的に、受動的にとられるものです。不確実性の尺度として、短期的な価格変動を用いることは、他に客観的に測定可能な指標もないことから、非常に便利なものとして、定着しています。しかし、いつしか、価格変動が本源的な不確実性の尺度にすぎないことが忘れられ、価格変動としてのリスクをとることが投資の本質ようになってしまっています。

そもそも、投資とは、産業活動に必要な資金を投じることであり、その活動が生み出す付加価値の一部を投資収益として回収するものです。従って、産業活動を通じて経済が名目的に成長している限り、投資は収益を生むのです。そのように投資をとらえ、そして、日本の現実をみると、国際分散投資の意義は簡単に理解されるはずです。

講師：森本紀行

講演内容

日常的な言葉で、常識的な論理で、資産運用を語ろうというのは、ひとつには、そのほうが自分自身に対して理解しやすいからですが、もうひとつには、そのほうが資産運用の専門家でない他人に対して説明しやすく、説明が受け入れられやすいからです。

資産運用の担当者にとって、自分自身が資産運用を理解していることは重要ですが、それ以上に、全く資産運用の知識をもたない関係者に対して、資産運用を説明し理解してもらえることが重要です。

これまで簡単に使っていた片仮名の意味を徹底的に再検討し、対応する日常的な日本語を厳選する努力をしていくことで、十分に理解できていなかった専門用語の理解が深まり、資産運用の本当の意味がみえてくるはずです。

また、投資というと、何か特別な技能によって上手にお金儲けをすることだ、というふうに思ってしまう人も多いでしょう。とんでもないことです。投資とは、銀行融資と同じように、金融の仕組みにすぎません。企業や政府などの資金調達の必要性に対して資金供給するのが、投資の役割です。

株式といい債券といい、それを発行した企業や政府からみれば資金調達の道具であり、それを取得する投資家の立場からみれば投資対象なのです。であれば、資産運用は企業の財務行動の反対側にあるにすぎないのですから、その資産運用を理解できない企業人などあり得ないことがわかるでしょう。そのように、資産運用を企業経営の常識のなかに再構築してみましょう。

講演項目

●資産運用の高度化

- ◎ ガバナンス改革
- ◎ 好循環

●投資の本質

- ◎ 投資の世界の古い格言
- ◎ 乳牛と牛乳についての古い格言
- ◎ 資産運用の四つの原則

講師略歴

HCアセットマネジメント株式会社
代表取締役社長

森本紀行

三井生命(現大樹生命)のファンドマネジャーを経て、1990年1月ワイアット(現ウィリス・タワーズワトソン)に入社。日本初の事業として、年金基金等の機関投資家向け投資コンサルティング事業を立ち上げる。2002年11月、HCアセットマネジメントを設立、全世界の投資機会を発掘し、専門家に運用委託するという、新しいタイプの資産運用事業を始める。東京大学文学部哲学科卒。

